

令和3年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育の概況	小麦の成熟期は平年並～5日程度早まった。品質は平年並、作柄は「平年並～やや不良」が見込まれる。
作業の進捗状況	乾燥・調製

1 気象経過 (前橋橋地方気象台の気象データ、※6月は20日まで、参考資料参照)

項目	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
平均気温(平年差)	+1.5℃	+0.3℃	+0.5℃	+2.3℃	+3.5℃	+0.8℃	+1.1℃	+1.8℃
降水量(平年比)	8%	0%	105%	95%	117%	65%	70%	45%
日照時間(平年比)	113%	107%	92%	116%	102%	111%	85%	106%

2 生育概況

(1) 概要

播種以降は1月中旬まで少雨が続き、気温の寒暖差が大きかった。1月下旬以降は気温が高く推移し、2月～3月は記録的な高温となった。降水量は1月、3月を除いて平年を下回ったが、2月～4月はまとまった降雨があり、5月中旬は長雨となった。

生育期間を通して高温で経過したため生育が前進し、出穂期は小麦・六条大麦では平年より5～7日、二条大麦では7～10日程度早まった。成熟期は平年と比べて六条大麦は平年並、二条大麦・小麦が平年並～5日早まり地域差が見られた。

生育状況は、出芽時の乾燥による出芽不良の影響で、生育の不均一や雑草が繁茂したほ場が散見された。出穂後は高温日が少なく初期の登熟は順調であったが、少雨により乾きやすいほ場では枯れ熟れが発生した。また、5月中旬の日照不足により登熟が緩慢となり、その後は高温で経過したため強制登熟となった。

収穫時に好天が続いたことと、刈り遅れ気味での収穫となったため、低水分で収穫されたほ場が多かった。収量は、二条大麦では概ね平年並、六条大麦・小麦では登熟中期の日照不足、枯れ熟れや高温登熟の影響により細粒が多いため平年並～やや劣る。外観品質は、小麦では硬質粒・退色粒等がやや多いが概ね平年並、大麦は細粒傾向と登熟後期の連続した降雨のため色沢が劣るため、平年並～やや不良が見込まれる。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

一部で雑草の発生が多い(ネズミムギ、カラスムギ、ヤグルマギク等)。

ほ場が乾きやすい中西毛地域で枯れ熟れが多い。

倒伏が大麦で散見された。

(3) 作況ほ等の調査結果

作況ほの出穂期は県平均で4月15日(過去平均比-5日早)、穂長は8.3cm(同101%)、穂数は662本/m²(同101%)で、収量は501kg/10a(同95%)であった。

農業技術センターの生育基本調査結果(小麦「さとのそら」、11月17日播種)では、出穂期は4月16日(同-8日)、稈長は83cm(同108%)、穂長は9.1cm(同105%)、穂数は523本/m²(同108%)、成熟期は6月3日(同-7日)、千粒重は38.7g(同102%)、収量は448kg/10a(同94%)であった(表2)。

(4) 作柄のまとめ

各地域の作柄は、中部「やや不良」、伊勢崎・西部・東部「並～やや不良」、館林「並」であることから、県内の小麦の平均作柄は「並～やや不良」が見込まれる。

表1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地区	播種期 月/日	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	上麦重 kg/10a	千粒重 g
平均	11/19 (-2)	4/15 (-5)	6/2 (-4)	78 (103)	8.3 (101)	662 (101)	501 (95)	38.2 (102)
前橋市	11/16 (-4)	4/17 (-6)	6/2 (-5)	75 (97)	8.4 (98)	581 (83)	437 (72)	38.2 (101)
玉村町	11/22 (+4)	4/16 (-3)	6/3 (-1)	83 (106)	8.3 (98)	725 (110)	527 (88)	38.9 (103)
高崎市	11/13 (-7)	4/13 (-3)	6/2 (-3)	71 (101)	8.0 (104)	679 (107)	476 (118)	37.3 (101)
太田市	11/25 (-3)	4/15 (-9)	6/2 (-5)	83 (108)	8.3 (105)	662 (108)	563 (115)	38.4 (105)
邑楽町	11/7 (-15)	4/14 (-9)	6/2 (-2)	79 (103)	8.4 (106)	654 (120)	514 (93)	37.8 (100)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

*過去の平均値は、前橋市は過去9年、伊勢崎市は同8年、高崎市は同1年、太田市は同9年。邑楽町は特異値のため県平均から除外した。

表2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

播種期 月/日	節間伸長始期 月/日	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	収量 kg/10a	千粒重 g
11/17 (+3)	3/18 (-6)	4/16 (-8)	6/3 (-7)	83 (108)	9.1 (105)	523 (108)	448 (94)	38.7 (102)

※()内は平年値は過去10年の平均に対する日数および比率(%)

表3 普及指導課・地区農業指導センター管内の麦類の作柄概況

地区	県平均	中部	伊勢崎	西部	東部	館林
作柄概況	並～ やや不良	やや不良	並～ やや不良	並～ やや不良	並～ やや不良	並

3 技術対策

(1) 調製の徹底による良品質化

枯れ熟れ等の影響により細粒・未熟粒・硬質粒が見られることから流量等に留意するとともに、必要に応じて色彩選別機等を活用して丁寧に調製する。フルイ目はビール大麦が2.5mm、六条大麦（食用）と小麦が2.0mmを基準とし、必要に応じてフルイ目の調整を行う。乾燥仕上がり水分はビール大麦・六条大麦が13%以下、小麦が12.5%以下とする。

(2) 次年産小麦の技術対策

ア 特に排水不良田では、可能な限り暗きよや明きよを施工し、ほ場内の滞水防止を図るとともに、播種が遅れないよう計画的に作業を行う。

イ 深耕の実施や有機物の投入により保水性を高めるなど、土作りや適正な施肥を行い生育の健全化を図る。

ウ 適期播種に努め、早播は凍霜害を受ける危険性が高まるため行わない。

エ 規模拡大に伴い、作業の遅れや適正管理ができていないほ場が増加している。経営規模に応じた機械装備と人員配置に配慮し、適正管理を心がける。

オ 除草剤は播種後速やかに散布する。除草効果を高めるため、十分な碎土と鎮圧を

行った上で処理する。春先に雑草が多い場合は草種に応じた除草剤を選択し、適期に散布する。カラスムギ、ネズミムギ、カラスノエンドウなどは体系処理等を行い、残草した場合は確実に抜き取りを行う。

カ 麦踏みは適正に行い、暖冬年は通常年より多めに実施する。

キ 近年、施肥量が不足している小麦ほ場が多く、枯れ熟れの発生要因にもなっている。品種に応じた施肥量を遵守するとともに、追肥は生育量に応じて必ず実施し、収量確保とタンパク質含量の安定を図る。

ク 種子消毒、赤かび病および雑草は適期・適切に防除を行う。

ケ ほ場において赤かび病、なまぐさ黒穂病、穂発芽の発生が認められた場合は、健全麦への混入を回避するため別収穫とし、乾燥調製施設等への搬入は行わない。

コ 適期収穫に努め、刈り遅れには十分注意する。成熟期後に長雨が予想される場合は、収穫可能なほ場では極力収穫をすませる。

【参考資料】

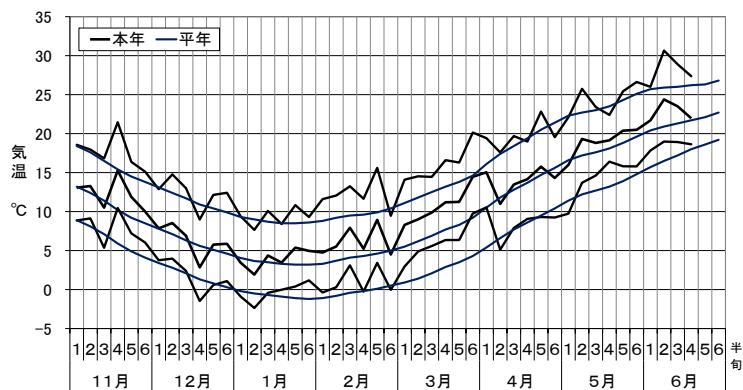


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

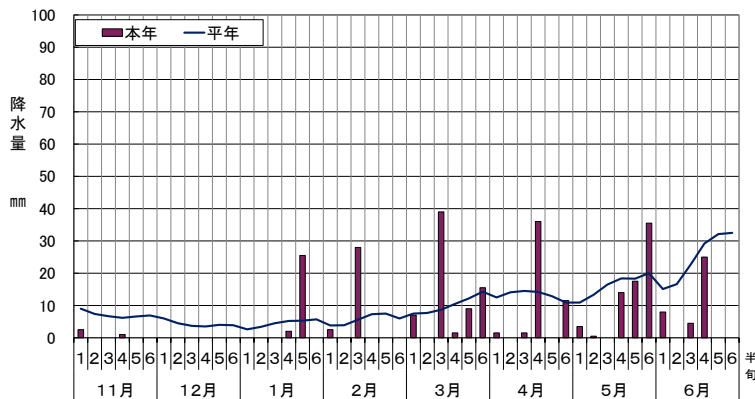


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

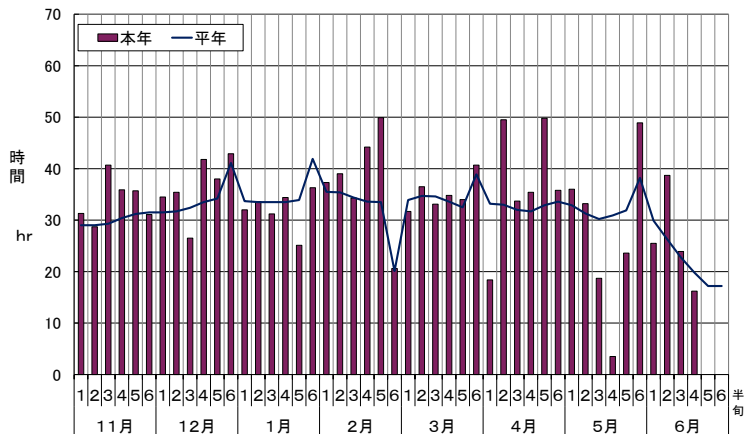


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）